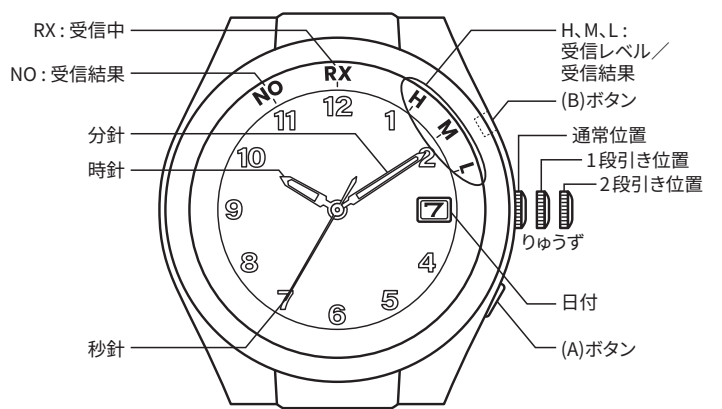


各部の名称

※お買い上げいただいた時計と取扱説明書のイラストは異なる場合があります。

※ボタンの形状はモデルによって異なる場合があります。



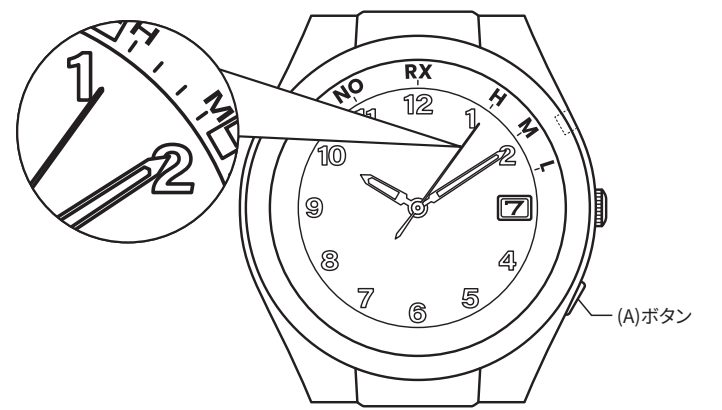
電波の受信方法

定時受信

毎日午前2時と午前4時の2回、秒針が「RX:受信準備」に移動し、自動的に受信を始めます。

《受信の方法》

時計を腕から外して、9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。午前2時と午前4時の2回、自動的に電波を受信します。



強制受信

時計を腕から外して、9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。4時位置にある(A)ボタンを約2秒押すと、受信を始めます。
※強制受信中は時計が1秒運針するまで動かさないでください。

《受信の手順》

- 4時位置にある(A)ボタンを約2秒押し、指を離します。秒針が「RX:受信準備」に移動したことを確認してください。
- 9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。
- 秒針がRXから受信中を示す「H、MまたはL」に移動します。
- 受信が完了すると、秒針が「H、MまたはL」から1秒運針に移行します。
 - ※受信できない場合は、「手動による時刻・カレンダー合わせ」を行ってください。

復活自動受信

充電不足で時計が止まった後、時計に光を当てて十分に充電されると、一度だけ自動的に受信を行います。

《受信の手順》

9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の直射日光が当たり、かつ電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。

受信中の秒針の位置

【受信準備中:RX】

秒針がRXに移動し受信の準備を始めます。分針は秒針に対応した位置で停止します。

【受信中:H・M・L】

秒針が受信レベルに対応した位置に移動し受信を始めます。受信をしている間(秒針が受信レベル表示中)も、正しい時刻を表示するように秒針が回転し、分針を現在時刻に合わせます。

【受信完了】

受信が完了すると、各針およびカレンダーが自動的に修正され秒針が1秒運針を始めます。
注意：受信中まれに受信局が切り替わり、秒針が「RX:受信準備」に移動し再度受信を開始する場合があります。

受信中は、秒針が「RX:受信準備」から、「H、MまたはL:受信レベル」に移動します。受信が完了すると、秒針が1秒運針にもどります。1秒運針するまで時計を動かさないでください。

受信結果

- 受信が成功すると：受信結果にもとづいて、自動的に時刻、カレンダーを修正し、1秒運針を始めます。
- 受信に失敗すると：受信前の時刻、カレンダー表示から、受信にかかった時間を追加した時刻にもどり、1秒運針を始めます。

受信結果の確認方法

受信完了後(A)ボタンを1回押すと、秒針が高速で「H、M、LまたはNO」へ移動し受信結果が確認できます。

注意：(A)ボタンを2秒以上押し続けると、強制受信を開始します。受信結果は10秒間表示し、自動的に現在時刻にもどります。また、表示中に(A)ボタンを押しても現在時刻にもどります。

	「H、M、L」は受信中レベルおよび受信結果を指すものです。
受信レベル	受信中レベルおよび受信結果
H	受信環境が非常に良い状態で受信中または受信したとき
M	受信環境が良い状態で電波を受信中または受信したとき
L	受信環境が良くない状態で電波を受信中または受信したとき
NO	受信に失敗したとき

手動による時刻、カレンダー合わせ

この時計は、海外など電波が届かない地域で使用する場合に、手操作で時刻やカレンダーを合わせることができます。電波が届く地域にもどったときは、定時受信、または強制受信を行ってください。

秒針と分針の修正

1. りゅうずを2段引き位置にします。

秒針が正転または、逆転で0秒位置まで高速運針し停止します。0秒位置で停止しない場合は、「基準位置の確認と合わせ方」を参照し、「基準位置合わせ」を行ってください。

2. りゅうずを回して、「分針」を合わせます。

- 右に回す(1クリック)と、秒針が時計回りで1回転し、分針が1分運針します。
- 左に回す(1クリック)と、秒針が反時計回りで1回転し、分針が1分逆転します。
※りゅうずを連続回転(2クリック以上)させると、秒針と分針が連続運針します。
※連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。
注意：分針に連動して時針も運針するため、秒針と分針を連続運針して時針を合わせることができます。また、時針に連動してカレンダーも切り替わります。
2月30日や4月31日などの非存日は自動的に早送りします。早送り中は秒針と分針が12時で待機し、時針が連続運針し非存日を早送りします。

3. 時報などに合わせて、りゅうずを通常位置にもどしてください。

月と年(うるう年からの経過年)の修正

1. りゅうずを1段引き位置にします。

カレンダーの修正状態になり、秒針が記憶している「月」と「年」の位置に移動し停止します。

2. りゅうずを回して、「月」と「年」を合わせます。

- 右に回して(1クリック)、「月」と「年」に対応した位置に秒針を合わせます。
- 左に回す(1クリック)と、秒針が逆転します。
※りゅうずを連続回転(2クリック以上)すると、秒針が連続運針します。
※連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。
(例)：うるう年の12月の場合:0秒の位置に秒針を合わせます。
うるう年から3年経過した年の4月の場合:23秒(4時と5時の間)の位置に秒針を合わせます。
注意:りゅうずを1段引きしたときの月と年から、秒針を2周以上回して修正しようとする、秒針が2周回った時点でストップし、自動的にもとの月と年の表示にもどります。

3. 月と年を修正した後、りゅうずを通常位置にもどしてください。秒針が現在時刻にもどり、運針を開始します。

《非存日に合わせた場合》

日付を合わせた後、月を変更し日付が非存日になった場合、修正状態からりゅうずを通常位置にもどすと、日付が自動的に翌月の1日に切り替わります。

《月と年の見方》

・月の見方

- 1月：1時と2時の間
- 2月：2時と3時の間

：

12月：12時と1時の間

・年の見方

うるう年: 各月のゾーンの最初の目盛り

うるう年から1年目：各月のゾーンの1目盛り目

うるう年から2年目：各月のゾーンの2目盛り目

うるう年から3年目：各月のゾーンの3目盛り目

《うるう年からの経過年早見表》

秒針の位置	経過年	年
月の表示範囲の最初の目盛り	0年(うるう年)	ー、2028、2032
1目盛り目	1年	2025、2029、2033
2目盛り目	2年	2026、2030、2034
3目盛り目	3年	2027、2031、2035

時計と日付を修正する手順

※日付は時針に連動しているため、単独では修正できません。時針を連続運針して切り替えます。

※時針と日付の修正は(B)ボタンを押し、時針が「正転→逆転→正転」のデモンストレーション運針した後10秒間または、時計修正後、時針が止まってから10秒間修正ができます。10秒間りゅうずまたは、ボタンいずれの操作も行われないと、自動的に通常表示にもどります。

1. りゅうずを通常位置にします。

2. (B)ボタンを1回押すと、時針がデモンストレーション運針後、「時針」と「日付」の修正状態に移行します。

3. りゅうずを連続回転(2クリック以上)させると、時針が連続運針します。時針が2回転すると、日付が1日分切り替わります。当日の日付を表示するまで時針を連続運針させてください。

※連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

※「日付」は午後10時頃から午前3時の間に切り替わります。

※「月」が小の月に設定されている場合、「日付」を30日から31日に切り替えても非存日は、自動的に送られ翌月の1日を表示します。

4. りゅうずを回して「時針」を合わせます。

- 右に回す(1クリック)と、時針が1時間分運針(時計回り)します。

- 左に回す(1クリック)と、時針が1時間分逆転(反時計回り)します。

※りゅうずを連続回転すると、時針が連続運針します。

※連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

注意：時刻修正するときは、午前、午後に注意して合わせてください。「日付」が切り替わったときが午前0時です。

《通常使用時のカレンダーの切り替わり時間》

- 月と年:1日の0時00分00秒で切り替わります。

- 日　付:午後10時頃から午前3時の間に切り替わります。

基準位置の確認と合わせ方

基準位置とは、時刻・カレンダーを表示するために基準としている、針と日付の位置のことです。

針や日付が正しい基準位置からずれていると、電波を受信しても、時刻・カレンダーが正しく表示されません。

※基準位置の修正は電波を受信しても時刻・カレンダーが正しくない場合にもみ行ってください。

※操作中、針が動いているときはりゅうず操作・ボタン操作は行わないでください。

基準位置の確認方法

1. りゅうずは通常位置で(B)ボタンを10秒以上押し、秒針が高速で移動を開始したら離します。

- 時針が「正転→逆転→正転」のデモンストレーション運針をした後、各針が基準位置(0位置)へ高速(正転または、逆転)で移動し停止します。
- 時針は日付が「31と1」の中間を表示するまで、運針を続けます。
- 日付は時針に連動して切り替わり、「31と1」の中間を表示し停止します。
※日付が逆回転(反時計回り)で切り替わる場合は「1」を表示する場合があります。

2. 基準位置を表示した後、(B)ボタンを押すと、高速で現在時刻にもどります。30秒以上ボタン操作またはりゅうず操作を行わないと、自動的に現在時刻にもどります。

基準位置の合わせ方

1. りゅうずは通常位置で(B)ボタンを10秒以上押し、秒針が高速で移動を開始したら離します。

- 時針がデモンストレーション運針した後、各針が基準位置へ高速で移動し停止します。

2. りゅうずを1段引き位置にし、りゅうずを回して日付を「31と1」の中間、時針を12時に合わせます。

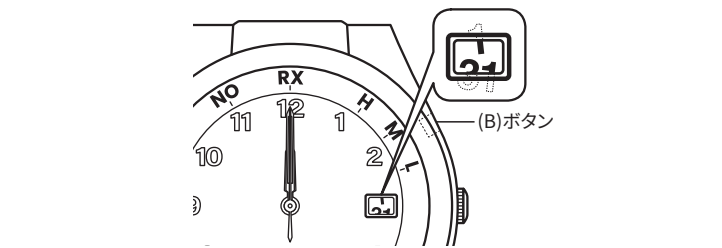
- りゅうずを連続回転(2クリック以上)させると、時針が連続運針します。時針が2回転すると、日付が1日分切り替わります。日付が「31と1」の中間を表示するまで、時針を連続運針させてください。連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。
- 日付が「31と1」の中間を表示した後、時針が12時を指すまでりゅうずをゆっくり回してください。

3. りゅうずを2段引き位置にし、りゅうずを回して秒針と分針を00分00秒に合わせます。

- りゅうずを回転(1クリック)させると、秒針が1秒分運針し秒針に合わせて分針が運針します。りゅうずを右または、左に回転させて、「秒針と分針」を00分00秒に合わせます。
- りゅうずを連続回転(2クリック以上)させると、秒針と分針が連続運針します。連続運針を停止する場合は、りゅうずを左右どちらかに回します。

4. りゅうずを通常位置にもどし、(B)ボタンを押します。

- 各針と日付が高速で現在時刻にもどります。
- ※これで基準位置合わせは終了です。基準位置合わせ後は、必ず強制受信を行ってからご使用ください。



オールリセットについて

- りゅうずを2段引き位置にし、(A)、(B)ボタンを同時に押します。
- 2段引きのまま秒針と分針を00分00秒に合わせます。
- りゅうずを1段引き位置にして日を31と1の中間に合わせ時針を12時に合わせます。
- りゅうずを通常位置にもどし、時刻が合わない場合は時刻、カレンダー合わせを行ってください。

《オールリセット後の初期位置》

・各針：0時0分0秒

・月：「1」月

・カレンダー：経年0年(うるう年)

・日：「1」日

こんなときは

《正確な時刻を表示しない》

- 受信はできていますか？
 - (A)ボタンを押して受信結果をご確認ください。
- 受信結果がNOの場合は時刻修正はされていません。この時計は標準電波が受信できないときはクォーツの精度(月差±20秒)で動きます。受信に適する環境で受信を行ってください。それでも受信できない場合は「電波の受信方法　強制受信」を参照の上、時刻を修正してください。
- 基準位置は合っていますか？
 - 「基準位置の確認と合わせ方」を参照の上、基準位置を確認してください。
- 基準位置がずれている場合は、修正してください。

《針が止まったまま動かない》

- りゅうずが引き出されたままになってませんか？
 - りゅうずを通常位置に戻してください。しばらくすると針は動き出します。ただし、時刻は合っていないせん。
- 秒針がRX位置に停止していませんか？
 - 受信中の可能性があります。受信が終わるまで待って再度、針の状態をご確認ください。

《受信が成功しない》

- 受信環境が良くない所で受信していませんか？
 - 「商品の特徴《受信が困難な場所について》」を参照の上、受信環境を改善してください。

《受信確認の際、針がずれている》

- 基準位置は合っていますか？
 - 「基準位置の確認と合わせ方」を参照の上、基準位置を修正してください。

《秒針が2秒運針をしている》

- 充電警告をしていませんか？
 - 充電不足をお知らせする充電告知が作動している可能性があります。
- 時計が止まる前に直射日光や蛍光灯の光を当てて充電してください。

製品仕様

機種	HR15
型式	ソーラー電源機能搭載ウォッチ
時間精度	電波非受信時 平均月差 ±20秒(常温(+5℃～+35℃)での携帯時)
作動温度範囲	-10℃～+60℃
表示機能	時刻：時、分、秒、日
付加機能	<ul style="list-style-type: none">電波受信機能(定時受信、強制受信、復活自動受信) 電波受信局自動選択機能(日本標準電波専用) 電波受信中表示機能(RX) 受信中レベル表示機能(H、M、L) 電波受信結果確認機能 手動時刻修正機能 基準位置確認/修正機能 ソーラー発電機能 充電警告機能(2秒運針) 過充電防止機能 パワーセーブ機能
持続時間	<ul style="list-style-type: none">充電完了後、時計が停止するまで：約2年(パワーセーブが作動しているとき) 約6カ月(パワーセーブが作動しないとき) 充電警告表示～充電不足で時計が停止するまで：約6日(持続時間は電波受信回数などによって異なります)
使用電池	二次電池(ボタン型リチウム電池)1個

※ 製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

サービス窓口： Q&Qお客様相談室	
TEL. 受付時間	03-6631-2775 9:30～17:30 月～金(祝日、年末年始を除く)
URL	https://qq-watch.jp

製造発売元 **シチズン時計株式会社** 国内時計事業部 **Q&Q課**